

## マツノマダラカミキリ薬剤予防試験

宮崎県林業試験場 家 入 忠

はじめに

マツノマダラカミキリの後食被害を未然に防ぐため、被害地林分において、前年からの継続散布区と、初めての散布区に分け、数種の予防薬剤を散布し、薬剤の効果を確認するため試験を実施したのでその結果を報告する。

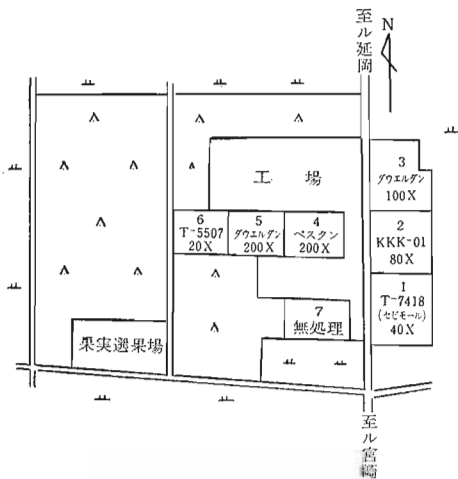
### 1. 試験地の概要

宮崎県南北のほぼ中間の東部に位置し、農耕地域のなかにあるまとまったクロマツ20~26年、樹高6~13m、胸高直径8~22cmの人工林分である。

### 2. 試験方法

#### 1) 供試木の設定

供試木は健全木各区100本とし、図一1のとおり設定した。



図一1 予防散布見取図

#### 2) 供試薬剤濃度および散布量

供試薬剤	濃度	散布量
T-7418 (セビモール)	40%	3ℓ/1本
KKK-01	40%	〃
ダウエルダン	40%	〃
ペスタン	25%	〃

ダウエルダン	40%	200〃	〃
T-5507 (ナック)	15%	20〃	〃

#### 3) 薬剤散布日および散布時気象状況

T-7418 (セビモール)	昭和50年5月22日
T-5507 (ナック)	平均気温18.1°, 最高気温22.30° 最低気温13.2°, 降水量, 一
KKK-01	昭和50年5月27日
ダウエルダン	平均気温19.4; 最高気温24.5°
ペスタン	最低気温12.8°, 降水量一

#### 4) 散布方法

各散布区とも動力噴霧機(鉄砲ノズル)によりそれぞれ供試木全樹に散布した。

#### 5) 枯損調査

全供試木を薬剤散布後、8月と10月に樹皮打ち抜きを行い、樹脂量流出状態により枯損木を調査した。

### 3. 結果および考察

調査結果は表一1のとおりであった。

1) 枯損木は8月上旬に認められ、8月下旬の調査で予防薬剤散布区と無処理区の枯損率の差が認められた。

2) 前年からの継続薬剤散布区と、初めての薬剤散布区の枯損量の差はなく、ほぼ同じであった。

3) 10月の調査では、T-7418 (セビモール) 40倍区6%, KKK-01, 80倍区10%, ダウエルダン100倍区4%, ペスタン200倍区6%, ダウエルダン200倍区4%, T-5507 (ナック) 20倍区5%, 無処理19%, の枯損率であった。ダウエルダン100倍区、および200倍区は効果が認められた。KKK-01, 80倍区は他の薬剤に比較して効果はうすかった。

4) 各区枯損木の位置は林内よりも林縁にみられ、しかも枯損木の大きさは全区とも比較的大きい樹木が枯損する傾向がみられた。

5) 本試験地のような激害地で枯損木を減少させるには、薬剤の残効性からみて、羽化時間前とピーク時期の2回散布の検討が必要である。

6) 昨年と本年同地区の予防試験の継承から、被害地の一部を予防散布しても、毎年無処理区で20%前後

表-1 予 防 散 布 調 査 表

試験区	樹 高	胸高直径	散布月日	予 防 剤	濃 度	昨年の 枯損率	枯 損 率		昨年処理状況
							8 月	10 月	
1	m 10—13	cm 9—22	月 日 5. 22	T-7418 (セビモール) 40%	倍 40	% 14	% 3	% 6	パインテックス MEP 40% EDB 20% 400倍
2	9—13	"	5. 27	KKK-01 40%	80	5	6	10	MEP 50% 400倍
3	"	"	"	ダウエルダン 40%	100	5	2	5	KKK-110 25% 200倍
4	6—10	8—15	"	ペ ス タ ン 25%	200	10—18	3	6	無 処 理
5	"	"	"	ダウエルダン 40%	200	10—18	3	4	"
6	8—10	8—20	5. 22	T-5507 (ナック) 15%	20	10—18	4	5	"
7	"	8—22		無 処 理		26	13	19	"

注) 散布量 3ℓ/1本 全樹処理

の枯損率であることから、本地域の被害を減少させるには全地域の予防薬剤散布が必要である。

参 考 文 献

家入 忠, マツノマダラカミキリ薬剤予防試験。  
日林九支研論 28, 1975